

連載

私の自慢の天文の会【1】

「日食情報センター」

飯塚礼子（日食情報センター 運営スタッフ）

1. はじめに

新連載「私の自慢の”天文の会”」がスタートしますとのことで、お話を頂きました。

私はいくつかの天文に関する会や連絡会に所属していますが、今回は「日食情報センター」についてご紹介します。

2. 日食情報センターとは

2009年、2012年は日本国内で日食が見られ、この日食情報センターと言う名前を目にされた方も多いかと存じます。日食観測で活躍されている塩田和生氏、大越 治氏、石井 馨氏なども日食情報センターの運営スタッフとしてご活躍されています。

1978年に日食情報センターが創立されました。以来、多くの方々に日食情報センターの活動が支持され、アマチュアの日食観測の発展に寄与してきたと感じています。

では、日食情報センターとはどのようなグループなのでしょう？設立当初の申し合わせを述べると次のようになります（以下、[1]より抜粋）。

- ・日食情報センターは、日食観測に関心を持つ個人が集まったゆるい集団で、いわゆる同好会や研究会のようなきちんとした枠のある会員組織ではありません。
- ・日食情報センターは、アマチュアに対して日食観測についての情報を流すことを目的にします。
- ・日食情報センターは、その目的のために「日食情報」誌を発行したり、観測報告会を開いたりします。
- ・日食情報センターは、その目的のために購

読料を集めます。

- ・「日食情報」誌に原稿を寄せていただく場合、心苦しいですが、原稿料の支払いは掲載誌で代えさせていただきます。
 - ・日食情報センターのスタッフとは、日食情報センターの活動に携わる人のことを指します。
 - ・日食情報センタースタッフは、できるときにできるだけの仕事を行います。
- 要は、日食についての情報を提供するボランティアの集まりなのです。

設立当初は、今日のようにインターネットが発達していませんでした。海外にて日食を観測するための現地情報、気象情報も少なく「日食情報」誌の役割も大きかったです。

その後、インターネットの発達に伴い多くの情報が直接ネットから入手できる時代になりました。もはや、「日食情報」誌の役割は終わったのではないかと、私たちスタッフも自問するようになりました。2010年「日食情報」誌100号を迎えた時に、「日食情報センター」の継続についてスタッフの中で話し合いを行いました。そして、

- 日食に関する事前情報や結果報告は、天文雑誌がかなりのページ数を割いて掲載されていますが、雑誌が扱う情報は協賛ツアーに関する情報などがメインでした。多様な形態で行われるようになった日食ツアー全体情報を伝える事や、日食に特化した高度な観測法の紹介など、天文雑誌が誌面を割きにくい情報に関しては「日食情報」誌の購読者数が概ね一定数を維持している理由だと考えられること。

- 日食情報センター主催の「日食勉強会・報告会」の参加者数と活気に、存在意義が反映しているものと考えられること。
 - 日食の時にしか見られない貴重な現象が多角的に観測されるように、以前から力を注いできたプロとアマの連帯のための活動も、幾つかの成果を生み出すなど一定の評価を得ていると考えられること。
- と言うことで日食観測者のニーズに応えるための活動(図1)を続けています。



図1 編集会議の様子

3. 活動内容

日食情報センターの「日食情報」誌(図2)は、原則年3回の発行を予定しています。冊子の内容としては、日食の天文学的条件はもとより、観測できる地域の現地情報、保健衛生対策、観測機材や観測法、文献紹介の他、ツアー情報や観測レポートなど、広範囲に扱っています。そして、日食情報センターは、純粋・公平に情報の提供だけを行うものとし、いかなる営利企業とも共催・後援はしないことにしています。

日食観測に関する勉強会、日食観測報告会を不定期に開催しています。

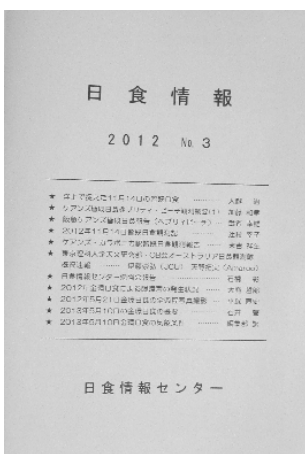


図2 「日食情報」誌



図3 日食情報センターのWeb
<http://www.solar-eclipse.jp/>

また、日食に関する情報発信と、勉強会・報告会のフォローアップを行う Web サイト(図3)の運営を行っています。「日食情報」誌の購読者専用のサイトを用意しています。ここでは報告会や勉強会での内容を見ることができます。

4. 終わりに

スタッフはそれぞれのスタイルで日食に係っています。私にとっては、仕事をやり繰りしながらの活動ですが、そこに集う仲間、皆個性豊かな人たちと一緒に楽しいひと時を過ごしています。

文献

- [1] 「日食情報」2010年 No.3, 2011年の日食情報センターの継続と「日食情報」誌の続刊について

飯塚 礼子